

報道機関 各位

記者提供資料
2021年(令和3年)7月28日
文化財担当課長 稲原 (918-5629)

太寺廃寺跡から播磨国府系瓦が出土

このたび、個人住宅建設に伴い、明石市が埋蔵文化財発掘調査を行っていた明石市太寺1丁目の太寺廃寺跡から、奈良時代の播磨国府系瓦が出土しました。

調査地点は、高家寺の南300m、月照寺の北150mの位置に当たり、段丘が平野部へと下っていく縁辺部に立地しています。

調査した面積は、住宅地3個分の約360㎡で、現地表面より約40cm下から奈良時代から平安時代の時期の地層が確認されました。そこからは、直径30cm、深さ60cmの掘立柱建物の柱跡が約80基見つかっています。また、区画溝や土器や瓦を廃棄した土坑も見つかり、そこからは、播磨国府系瓦のうち、本町式とよばれる軒平瓦が2点出土しました。播磨国府系瓦とは播磨地域の官衙や駅家などから多く出土する瓦で、播磨国司の管理下で生産し、配布されたと考えられているものです。かねてより、当地周辺は明石駅家の比定地として有力視されていた場所です。ただし、見つかった多くの柱穴は官衙施設に伴う建物ではなく、また、土師器甕などの日常の器も出土していることから、駅家などではなく、通常の集落であったと考えられます。時期的には8世紀後半から11世紀まで及んでおり、周辺に駅家があり、その駅家を支える駅戸の集落であった可能性が高いとみられます。

この時期の遺構群の下部からは、7世紀前半から中葉にかけての大型の掘立柱建物跡も見つかっています。柱穴は直径70cm、深さは55cmで、約30cmの柱痕が残るものもありました。柱と柱の間隔は2.5mで、3間×3間以上のものが見つかっています。

また、住居に伴う竈や、須恵器杯身や高杯、緑色凝灰岩製の紡錘車などもまとまって見つかるなど、当地に有力氏族の住居があったことが明らかとなりました。

この氏族は、太寺廃寺の創建にも深く関わり、その後、明石駅家の管理をも担った可能性が高いと判断されます。

今回の発見により、7世紀後半に創建された太寺廃寺の創建以前の当地の姿の一端が明らかになったとともに、8世紀以降、明石駅家と関連すると考えられる集落が発見されたことで、いまだその所在地が不明であった明石駅家の位置を推し測り、駅家周辺の状況を解明していくうえでもきわめて重要な発見となりました。

発見された遺物等は、今年の10月30日から文化博物館で開催する「発掘された明石の歴史展～明石の古道と駅・宿～」で展示紹介する予定です。

用語解説

太寺廃寺

現在の高家寺の境内を中心として存在していた寺院。境内に塔跡と心礎が残されており、7世紀後半に創建されたと考えられている明石郡内で最古の寺院です。

明石駅家

明石駅家の所在地は吉田南遺跡説と、太寺廃寺周辺説、上ノ丸説等があり、いまだ確定していません。吉田南遺跡は、古代山陽道の路線からは離れており、駅家とするより、明石郡衙と考えられます。また、太寺廃寺周辺説は、古代寺院と駅家とが近接することが多いことから唱えられた説ですが、古代山陽道が海岸ルートを通らず、台地に上がることを前提としています。上ノ丸説は明石神社が載る台地一帯が「摩耶」と呼ばれており、「うまや」から転訛した可能性が高いとものではないかとされているものです。近年、大蔵中町遺跡で瓦積み井戸が見つかり、そこには播磨国府系瓦が多く含まれていることがわかり、この遺跡の近くに明石駅家があったとする説も有力となってきました。

播磨国府系瓦

奈良時代に、播磨国司が直属の瓦をつくる機関で制作させ、駅家などの関連施設に配布したと考えられている瓦。模様の組合せによって、国分寺式、長坂寺式、古大内式、本町式、野条式、北宿式、上原田式、毘沙門式の8種類に分類されています。本町式の軒平瓦は今回見つかった太寺廃寺以外に、天文町1丁目、大蔵本町7丁目から見つかっています。

駅戸

駅戸は駅務に服する義務を負った特定の農民の戸です。播磨国では賀古駅家の北西約1km離れた場所に位置する坂元遺跡が駅戸の集落と評価されています。

駅長

駅長は駅戸の中で富裕で才能があるものが選ばれました。駅長の任務は駅使の送迎、接待、駅馬・駅子の仕立て、駅家・駅田の管理、駅起稲の収納、支出などがあります。

『菅家文草』には888年（仁和4）と901年（昌泰4）に菅原道真が明石駅を訪れた記事があり、明石駅長と交友があったことがうかがえます。

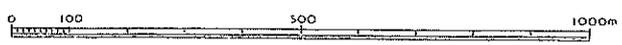
駅子

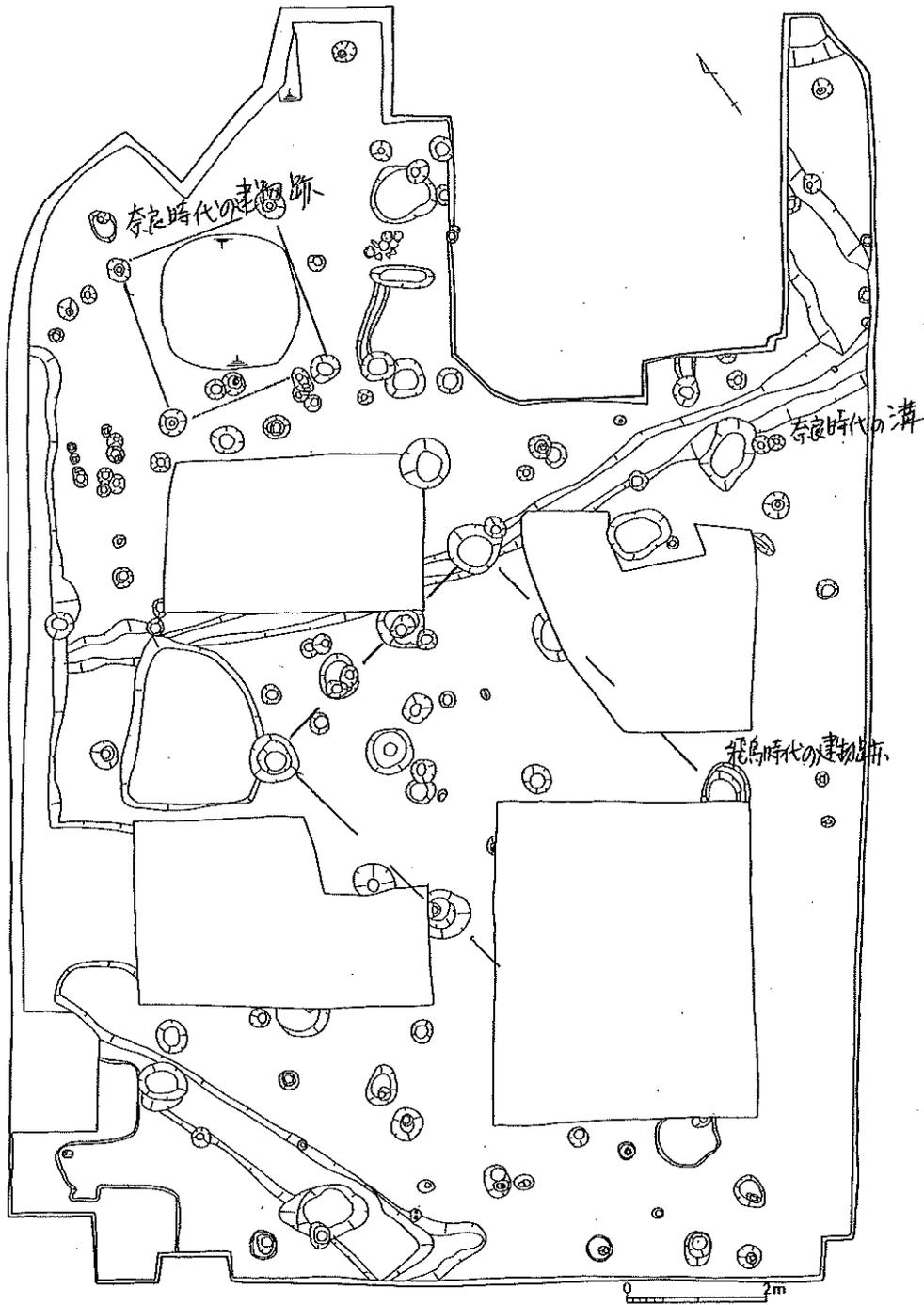
駅子とは、駅使の乗用する駅馬の飼育者で、駅戸の課丁があてられました。駅使が到着すると、これを迎え、鞍などの装備を整え、駅使などの乗り馬や荷物の駄馬をひいて次の駅まで送り、次の駅馬・駅子と交代して帰るのが任務でした。



明石海峡

1 : 13,000







飛鳥時代の遺構



飛鳥時代の掘立柱建物



奈良時代の掘立柱建物



播磨国府系瓦出土状況



播磨国府系瓦